

<b>教育相談Ⅱ（カウンセリングを含む）</b>	担当教員	単位数	授業形態
	佐々木恵理	1	e-Learning

## I 学修の概要

教育相談の基本的な考え方について理解し、教育相談を推進することができるような組織づくりやチーム支援、計画・評価について考える。また、教育相談の基盤となるカウンセリングの理論や技法について学ぶことで、児童生徒の不適応状態について多面的に理解する。後半には、学校における児童生徒の諸問題について、発達障害を取り上げ、児童生徒が抱える課題に対して、個に応じた支援及び環境調整への配慮を考える。

## II 学修到達目標

- (1)教育相談における3類4層について理解することができる。
- (2)組織的な教育相談体制やその役割について理解し、教育相談活動を計画・評価・改善策を立案することができる。
- (3)教育相談の基礎知識となるカウンセリングの理論や技法を理解し、児童生徒の心理や背景理解に役立てることができる。
- (4)児童生徒や保護者の心に寄り添うためのカウンセリング・マインドについて理解し、実践することができる。
- (5)一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、個々の特性を活かす個別指導や集団づくりを提案することができる。
- (6)自分自身のストレスマネジメントについて振り返り、力を発揮できる職場づくりを進めるための具体的な実践を見出すことができる。

## III 目的

社会の急激な変化とともに、児童生徒の発達上の多様性や家庭環境の複雑性が増している。困難な状況において苦戦している児童生徒や発達や適応上課題を抱えている児童生徒には、学級担任のみが対応するのではなく、学校として組織的にチームとして支援することが求められている。

また、教育相談は、事案が発生してからのみではなく、未然防止や早期発見につとめ、さらには、様々な資質や能力の積極的な獲得を支援する教育相談活動も含まれる。

そこで、本講座では、教育相談に関わる知識や諸理論を提供し、これまでの教育実践と合わせて振り返ることを通して、児童理解や保護者理解を深める。その上で、教師としての教育相談の考え方を意識しながら個に応じた指導や学級づくり・学校づくりを行うことができることを目的とする。

## IV 小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1)児童生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。
- (2)児童生徒の行動とその背景にある想いを把握し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行うことができる。
- (3)問題行動等を早期に発見し、教職員等に相談して迅速に対応することができる。
- (4)教職員と共に生徒の状況を共有し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行うことができる。
- (5)チームとしての学校の一員として、他の教職員と連携・協働しながら、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を気付くことができる。
- (6)一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの授業づくりに活かすことができる。
- (7)多様性を尊重し、共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実現のために、工夫改善を行うことができる。
- (8)児童生徒の悩みやサインを把握する等の教育相談に関する校務に、ICTを効果的に利用し、データを適切に活用することができる。
- (9)幼・小の接続や小・中の接続を意識した個別支援計画を立案することができる。

## 第1講 教育相談の基本的な考え方

### 1. 概要（何を学ぶか）

生徒指導提要における「生徒指導」「教育相談」についての基本的な考えを整理し、教育相談の重層的支援構造について、発達支持的教育相談、課題予防的教育相談、困難課題対応的教育相談の視点を、これまでの教育実践と合わせて振り返る。

### 2. 学修到達目標

- (1) 生徒指導提要における生徒指導と教育相談の位置付けについて理解することができる。
- (2) 教育相談の3類4層について、具体例を挙げて説明することができる。

### 3. 追究トピックス

- (1) 学校で取り組んでいる教育相談に関わる活動を列挙してください。
- (2) (1) で挙げたそれぞれの活動が、「困難課題対応的教育相談」「課題予防的教育相談」「発達支持的教育相談」のどこに位置付けられるか分類・整理してください。
- (3) 各活動を整理する中で、気づいたことについて考察してください。  
\*現在、勤務先が学校現場でない方は、過去の教育実践の中から当てはめて考えてみてください。(本講以降も)

## 第2講 教育相談体制づくり

### 1. 概要（何を学ぶか）

教育相談の体制づくりや教育相談コーディネーターの機能について学修する。また、チームによる効果的支援の実現のためのチーム支援のプロセス、関係機関との連携、教育相談における計画や評価の視点と改善についてふれ、組織的な教育相談体制づくりについて考える。

### 2. 学修到達目標

- (1) 教育相談の体制づくりや役割について理解することができる。
- (2) 教育相談コーディネーターとして、校内の体制をより円滑に進めていくための取り組みを計画することができる。

### 3. 追究トピックス

- (1) あなたの学校の実態として、教育相談体制における役割は、明確になっていますか。  
(①明確である ②ある程度明確である ③やや明確ではない④明確ではない)  
どの番号にあてはまるか、理由も合わせて考察してください。
- (2) 現在の教育相談の組織にどのような問題点があるか、また改善を図るとすれば、どのような改善案が考えられるか考察してください。  
(学校勤務以外の方は過去の職場などの実践について振り返り取り組んでみてください)

## 第3講 教育相談に活かすカウンセリングの理論と技法

### 1. 概要（何を学ぶか）

カウンセリングの代表的な3つの理論（精神分析理論、行動理論、自己理論）について学修し、児童生徒の不適応状態や行動について、理論的な解釈を基に振り返る。

### 2. 学修到達目標

- (1) 教育相談の基盤となるカウンセリングの理論（精神分析理論、行動理論、自己理論）について理解する。
- (2) 児童生徒の不適応状態や行動を理論を基に、解釈することができる。

### 3. 追究トピックス

- (1) 防衛機制について、学級の子もたちや、自分自身にあてはめて考えてみましょう。  
子どもたちの行動について、防衛機制の考えをあてはめて行動を解釈したときに、どのような防衛機制がみられましたか。3つ挙げてください。
- (2) 不安階層表の作成演習  
①この演習では、階層表を作成することで、自分の気持ちや気分がどのように変化するかということを体験してもらうことを目的に行います。  
②テーマは、「不安なこと」もしくは「やるべきだけど、やりたくないこと（とりかかることが、億劫なこと）」としま

- す。前者の場合は「不安の強さ」、後者の場合は「不快感」が最も強い100の状態である欄の行動内容を記載します。
- ③行動を細分化し、「不安」や「不快感」が低い行動を探して記載します。
- ④作成後に、作成した感想を記入しておきましょう。

#### 第4講 教育相談におけるカウンセリング・マインドーロジャーズの人間観と3つの態度ー

##### 1. 概要（何を学ぶか）

カウンセリング・マインドの定義と背景，ロジャーズの人間観，ロジャーズの臨床実践の基盤となる“中核3条件”である①自己一致，②無条件の肯定的関心，③共感的理解について学修し，これまでの実践と合わせて振り返る。

##### 2. 学修到達目標

- (1) カウンセリング・マインドに必要な考え方や態度について理解し，説明することができる。
- (2) 児童・生徒を理解し，保護者の子育て相談等にあたる教師の基本的な心得や態度を理解することができる。

##### 3. 追究トピックス

- (1) 本講で，特に印象に残った事柄を取り上げて，要点を整理してください。
- (2) 「自己一致」「無条件の肯定的関心」「共感的理解」について，これまでの実践を振り返り，どの程度できていたでしょうか。それぞれの視点で振り返り，記述してください。

#### 第5講 教育相談に活かす話の聴き方 ー相手の気持ちになって理解すること

##### 1. 概要（何を学ぶか）

教育相談場面での心がけ，相談環境についての配慮事項，教育相談で用いるカウンセリング技法，保護者との信頼関係について学修し，自分自身の話の聴き方について振り返る。

##### 2. 学修到達目標

- (1) 児童生徒の教育相談や保護者の相談にあたる際の自分自身の態度を振り返り，省察することができる。

##### 3. 追究トピックス

本講での学びを自分自身の話の聴き方について当てはめたとき，改めて感じたこと・考えたことは，どのようなことでしょうか。

(ご自身の状況に合わせて記述してください。児童生徒に対して，保護者に対して，管理職として職員に対してなど)

#### 第6講 個々の特性に配慮した指導と支援

##### 1. 概要（何を学ぶか）

気になる子どもについての理解，子ども理解の前提となる発達の見点，一人ひとりの特性に応じた教育，子どもの特性を活かした学級づくり，子どもの持っている力『リソース』，子どもたちの自己効力感について学修する。

##### 2. 学修到達目標

- (1) 子ども理解の前提となる発達の原則について理解することができる。
- (2) 個々の特性を活かす指導・支援を提案することができる。

##### 3. 追究トピックス

- (1) 学校生活上の課題を抱えている児童生徒を思い浮かべましょう (Aさん)。
- (2) その子どもの気がかりなことや苦手なことはどんなことでしょうか (①)。
- (3) その子どもの強み，「リソース」はどんなことでしょうか。できるだけたくさんあげてみましょう (②)。
- (4) その子どもの強みは，どのような関わりや，環境調整により，発揮されると思いますか (③)。

記入例) Aさん ①気がかりなこと・苦手なこと ②強み・リソース ③教師の関わり，環境構成

(参考)「気になる子」ではなく，学級の中で「なかなか目が届きにくい子」，「いつも元気で活発な子」など，それぞれ取り組んでもより個に応じた教育や支援を考えることにつながります。

#### 第7講 児童・生徒の心の諸問題 発達障害ーASD (自閉症スペクトラム症) の理解と支援

##### 1. 概要（何を学ぶか）

発達障害の概念の変化，アセスメントに基づく支援，ASD (自閉スペクトラム症) の認知の特徴，ASD の認知特性に

応じた支援，親としての子どもの障害受容について学修し，授業づくりや環境構成の工夫について省察する。

## 2. 学修到達目標

- (1) 特別な配慮を要する児童生徒が抱える課題とその対応について理解することができる。
- (2) ASD（自閉スペクトラム症）の認知特性について説明することができる。

## 3. 追究トピックス

- (1) ASDの3つの認知特性について，説明してください。
- (2) 特別な配慮を必要とする児童生徒への学習面や生活面の支援は，本人だけでなく，学級全体にも分かりやすい指示や意味の伝達に繋がります。

ASDの3つの特性や構造化という視点で，教室や学習環境を見直し，より工夫できるとすればどのようなことがあるか論じてください。

## 第8講 教職員一人ひとりが力を発揮するために

### 1. 概要（何を学ぶか）

教師自身のメンタルヘルス，セルフケアの重要性，教職生活を前向きに乗り越えるためには，教師自身の職場での役割と家庭生活の関連について学修し，日常生活や職場でのメンタルヘルスに関わる工夫について振り返る。

### 2. 学修到達目標

- (1) 自分自身のストレスマネジメントについて振り返り，ストレスの仕組みについて理解することができる。
- (2) 教職員一人ひとりが力を発揮できる職場づくりを進めるための具体的な実践を見出すことができる。

### 3. 追究トピックス

- (1) この講で印象に残ったことは，どんなことでしょうか。そのことについて要点をとりあげ，考察しなさい。
- (2) 日常生活や職場でどのようなことを実践していきたいですか。もしくは，これまで続けてきたことをどのようにさらに工夫したいですか。